公共スケートボード施設の建設をめぐる促進要因の分析

A study on promotion factors of constructive public skateboard facilities

1K07B195-9　松本　透

指導教員 主査 作野 誠一先生　　副査 宮内 孝知 先生

【緒言】

若者に人気のあるスポーツの１つとしてストリートスポーツがある。本研究では、ストリートスポーツをスケートボード・BMX・インラインスケートなどのことをさすものとして定義した。現在ストリートスポーツを行うことができる公共施設は全国に 181 ヶ所存在する。しかし、公共施設は都道府県により偏りがあり、１つも公共施設がない都道府県も存在する。このようなストリートスポーツ施設は 2000 年頃から行政とスケートボード愛好者との話し合いにより作られるようになった。最初の頃は周辺住民からの苦情を理由に行政がストリートスポーツを囲い込むために施設を作っていたが、近年になって愛好者たちの要望に沿った施設を行政も理解して作るようになってきた。東京都には 2010 年に世田谷公園と渋谷区宮下公園の 2 ヶ所に新しくストリートスポーツ施設がオープンした。どちらも行政が整備したものだが、東京の中心地でストリートスポーツ施設ができたことに筆者は衝撃を受けた。周辺住民からの苦情や場所の問題、愛好者達のモラルやマナー、行政との関わり合いの仕方はどの地域よりも課題が多いはずであったからである。この課題解決方法を明らかにし、今後全国でストリートスポーツ施設を建設しようとしている愛好者達と情報共有したいと考える。

本研究の目的は、ストリートスポーツの施設建設を全国で進めるための効果的な方策について検討し、提言することである。施設建設・整備をより有効に進めるためにはスケートボードがもつ社会悪というイメージを無くすことが重要だと考える。こうしたイメージを払拭する過程を東京都内のストリートスポーツ施設の建設過程の分析を通じて洗い出し、共通点を見出す。また現在建設運動を行っている団体の比較から今後に向けた提言を行いたい。

【研究方法】

文献調査で、スケートボードの今までの歴史を明らかにし、施設の問題点、スケートボードのニーズの変化などを調べた。そして、東京都内の 2000 年から 2010 年までに建設された 3 ヶ所の公共スケートボード施設を取り上げ、それぞれの建設に携わった中心人物と、管理している行政の関係者にインタビュー調査を行い、2 つの異なる視点から考察した。また、これらとは別に、現在も施設建設の要望を提出して活動を続けている静岡県富士市の団体関係者にもインタビュー調査を行った。

【調査結果】

東京都の施設の調査では、スケートボードの社会悪というイメージを変えるきっかけとして、区民祭への参加や公園での講習会など、スケートボードと直接関係のない場所で紹介することが大きく関係していた。スケートボード愛好者達も節度ある行動を意識的に行い、イベントを開催していたため、若者が子ども達にスポーツを教える姿を見て、周辺住民のスケートボードのイメージが変わり協力するようになったと言える。公園に施設を作る場合、若者が周辺住民との参加共同の場で自分の意見を述べ、どれだけスケートボード施設を必要としているかを伝えなければいけない。そのためにはスケー

現在要望中の富士市の場合、行政や周辺住民のスケートボードに対するイメージが未だ悪く、理解はしているが施設建設には至らないケースが過去にあった。その原因の一つは、競技者数が足りないことがあり、それは東京都にはない特徴であった。問題解決のためにはイメージの払拭と、競技者の獲得が必要であるという結果が得られた。

【結論】

ストリートスポーツ施設建設には、「競技者の獲得」、「周辺住民や行政との共存」、「社会悪のイメージの払拭」という３つをクリアしなければならないことがわかった。

具体的な提案としては、区民祭の参加、スクールの開催、請願書の提出、利用者の意識を変える、周辺住民との話し合いの場への参加、行政への定期的な報告などがあげられる。アプローチの仕方はさまざまであるが、長期的な計画をもち、継続していくことが大切であると考える。

トボード愛好者自身が公園はみんなで利用するものだと意識を変え共存していかなければならない、という結果が得られた。